

平成28年度石巻地域産業人材育成プラットフォーム会議 議事録

日 時：平成28年7月14日（木）14:30～

場 所：石巻合同庁舎5階大会議室

【開会挨拶：宮城県東部地方振興事務所 加藤所長】

地域の産業振興，本日のテーマである人材育成に各立場での皆様の尽力に感謝する。

全国の自治体で地域の将来をどう未来につなぐかが共通の課題となっている。産業こそが柱。産業を動かすのが人，人材である。震災後5年を経過し，当石巻地域でも産業再生の態勢が整いつつある。震災後の努力を地域の豊かな未来につなぐため，産業の将来を担う人材育成・雇用・定着の促進が必要不可欠。当会議はこれらの認識を共有し，対策を検討して行く場。本会議は宮城県内に7つの県出先機関が有る中，石巻地域で唯一設置され，運営されている会議。今年度からは義務教育段階への取組も充実すべく，新たに東部教育事務所長が参画。情報共有とともに忌憚の無い意見をお願いする。

【協 議】

（1）石巻地域の雇用情勢と産業人材育成の取組について

- 平成28年5月，有効求人倍率1.76倍（県内2位），
 - ・有効求人5,609人，（24年1月以降53ヵ月連続）
 - ・有効求職者3,189人。全体としては減少傾向
- 求人・求職バランスシートは全体的に高め。業種別では建設，医療介護，水産加工が高い。
 - ・資料5ページ 建設，製造（水産加工を中心に），医療福祉が高い状況となっている。求人に対して求職者の紹介が追いついていない。
 - ・資料6ページ，雇用保険適用事業所について，震災前に比べ増加している。
 - ・資料7ページ，平成27年度の学卒内定率99.6%。475人中305人。内定率も高めで推移している。
 - ・平成29年度（5月15日現在）の高校新卒者は456人中今年よりも20人減。225人が石巻での就職を希望している。未定が61人。
 - ・この他，ハローワーク石巻の取組紹介。

（2）高校生の就職・離職状況と各高校の産業人材育成の取組について

- ・石巻地域全体の進路先を取りまとめた資料。
- ・民間就職は例年，全体の30%，500人前後で推移。
- ・震災後，地元への就職を希望する高校生が多く，特に保護者の地元志向が高まっている。地元就職者は当初からの希望者に加え，仙台方面就職希望者が最終的に地元就職するケースも多数。
- ・震災後は，非製造業の就職希望（建設業への希望者）が増加。平成28年度は製造業希望者も増加傾向。
- ・宮城県内高校生の離職率は約4割。石巻管内も同傾向。震災後の離職者は1年以内離職が最多。2年目以降はほとんど離職しない。
- ・震災前は希望職種の人材が少なく，不本意ながら就職した生徒が3年以内に離職。震災後は希望職種に就職し，1年経過後は職場に順応。
- ・A3資料は，石巻地域の高等学校の取り組みを紹介。
- ・「志教育」は，村井知事が松下政経塾時代に読んだ「志のみ持さん」という言葉から宮城県のキャリア教育を包含する取組として推進。
- ・進学校は大学卒業後を見据えた内容，専門校では高校卒業後を見据え，在学段階から外部講師（地元企業経営者等）を招聘して職業意識の醸成を推進。

(3) 石巻専修大学の就職状況及び産業人材育成の取組について

- ・過去10年間の就職希望者に対する就職率は9割以上。
- ・H25～H27の卒業生に対する就職率は7～8割。就職活動をしない学生の対応が課題。
- ・就職支援の取組みにより、震災直後にくらべ卒業生に対する就職率は改善傾向。
- ・H25～H27の石巻地域への就職状況は、宮城県に就職決定者全体の4割が就職し、内25%（全体の1割）前後が石巻地域に就職。
- ・石巻専修大学の4年間の就職支援プログラムを紹介。資格取得や企業説明会等。

(4) 小・中学校における産業人材育成の取組について

- ・平成22年11月から「志教育」として、キャリア教育を実施。
- ・志教育では、「関わる」「求める」「話す」を3つの視点として取組を推進。
- ・小・中・高全ての期間で人や社会と関わり、自己の果たすべき役割を考えさせながら、将来の社会人としての生き方を主体的に求めさせていく教育。
- ・平成28年の目標は、郷土の復興・再建に力を発揮できる人づくりとしている。
- ・社会人による出前授業を取り入れる小・中学校も存在。企業からも従業員の資質向上に有意義という意見もある。

(5) 各機関における産業人材育成の取組について

■石巻商工会議所

新入社員研修等を継続的に実施。学校との関わりを重視し、地元定着に貢献。他地域に出た若者が戻ってくる動機・環境作りが重要。今年度は街づくり、仕事づくり、人づくりの運動を展開。

■東松島市商工会

商工会は働く場所づくりに取り組む。工業用地への企業誘致も進める。

震災後、子供達の心は疲れている。少しでも元気を出してもらいたいと、ディスカバリーセンターを開設した。日本で唯一の科学地球儀を設置。デンマークで視察して導入を決定。修学旅行の見学先等活用されている。

■石巻信用金庫

顧客貢献、地域貢献、社会貢献を大きな柱として、日々の業務に取り組む。人口減少社会の中、被災地ではさらに加速しており、地域の復興・再生支援と併せて人材の地元定着、雇用創出の前提となる産業人材育成が地元金融機関としても重要と認識。

石巻信用金庫震災後地元から53名を採用。来年度も15名を予定。大学生を対象とした宮城就職ガイダンスに参加。石巻専修大学の企業ガイダンスにも参加。大学生インターンシップは5日間、高校生は2日間実施。高校生向け取組では、石巻地域商品開発高校生講座への支援。小学生向けに、しんきんマネースクール、金融リテラシーの一環。平成20年から本年まで20回の開催。10校624名の子供達に金融教育を実施。将来を担う児童に早い段階からの金融知識を提供。

■石巻市

- ・雇用創出＝起業者セミナー等開催。平成27年度新規起業者36名を育成。テレワーク推進事業では、平成28年6月末現在、テレワーカー50名を登録。
- ・販売促進＝6次産業化セミナーを開催。延べ300名が参加。企業57社を継続支援。
- ・第一次産業担い手育成＝水産業担い手センターは空き家を活用。市外から水産業従事者3名の研修生を受入中。
- ・震災直後に東部地方振興事務所地方振興部、商工会議所、石巻市で地元企業の状況把握の必要性を痛感。企業情報データベース化推進事業により、地元企業503社の基本情報、PR情報、採用情報を掲載したデータブックを作成。

■宮城県高等技術専門校

石巻北高等学校飯野川校とは以前から体験学習等で連携。平成27年度からは長期休暇等を活用して、本来の履修年次4年を短縮できる3修生カリキュラムの導入に取り組む。木工・溶接・自動車科の3科で協力。

(6) 当会議の今後の取組について

■産業人材育成協働者ガイド＝石巻地域の産業人材育成に意欲的な事業所の情報を取りまとめたもの。

■石巻地域版インターンシップに関するガイドライン＝高校生を中心としたインターンシップの新たな取組を提案。

・平成28年度はこれらの情報や資料を「活用」していく年と位置づけ。

■産業人材育成・雇用・定着を地域一体で推進。

・昨年度のプラットフォームでは雇用、定着に関する具体的な取組が不足。

・情報共有＝石巻地域産業人材育成プラットフォーム会議を開催

・地域の企業・事業所と大学・高校をつなぐ取組、インターンシップを推進

・雇用の確保＝ハローワーク石巻との共催による合同企業説明会

・定着対策＝ヴォイストレーニングセミナーを計画。学生・生徒のコミュニケーション能力向上を促進

・新入社員研修を今後検討。石巻商工会議所の実施体制との連携

・石巻地域産業人材育成プラットフォームは地域全体の取組と位置づけ、参画する各機関がそれぞれの取組を各自の取組では無く、プラットフォームの取組と認識し、連携を意識した活動を強化。

【意見交換】

■商工団体（須能水産部会長）

・コミュニケーション能力向上を目指すセミナーの「ヴォイストレーニング」という標記に違和感。（歌をうたう場合の発声法を学ぶものでは。）

・プラットフォーム会議開催の来年1月、我々は「就職」のための人材育成では無く、石巻地域の人間を作るのが目的

・水産高校で産業人材育成に関する授業に協力。

・コミュニケーション能力向上は、主語の無い日本語で物事を如何にして的確に伝えるかが重要。「いつ、どこで、誰と、何をした。」を入れて作文する能力が重要であり、数名のグループワークでコミュニケーション能力を研くのが有効では。

・「志教育」とあるが、「志」とは人間の内面に存在するものであり、言葉で表すべきものではない。

・小中学校の共通の課題は学校経営を求められること。公立学校であれば「経営」では無く「運営」のはず。私立学校で収益を得る場合とは違う。

・小・中・高校の教員は資料作成に忙しく、子どもと対面する時間が不足。教員の声に校長は耳を傾け、教育委員会へ伝えるべき。

・我々は地元の人材を育てるため、民間人が学校へ入り、子ども達を地元の財産としたい。そのためにも、想像では無い実体験に基づいた話で子ども達を感動させたい。魚を採った経験の無い者が教科書で魚の話をして子ども達の気持ちは動かない。

・子どもを育てることが結果的に人材育成に繋がる。就職先のマッチングを図る必要性も認めるが、長期的に石巻にとって価値のある子どもを作るために地元の関係者が協力し合うような動きを作りたい。そのためにも、来年の1月まで空けずに、何をどうするのか議論を深めていきたい。1年2回の会議で報告書を作るだけでは無くして欲しい。口も出すが汗もかく。よろしくお願ひしたい。

■学校

・先日、石巻魚市場の須能社長から1年生を対象に講話を実施。今後3年生を対象としたものも予定している。この地域には、素晴らしい企業人が多数いる。そういった方々の協力を得て講話をいただくと、普段の授業以上に生徒達は真剣に受け止め、何かしら心の中に変容する部分がある。経験が進路決定にも結びついている。

・石巻北高では、河南高校から変更される際に総合学科を設置し、キャリア教育にも地域の人的資源を活用しながら、本当に自分がやりたいことを探求。1年生の段階から計画的に産業人材育成の取組を実施。食農系列は、食品製造のプロの方より直接技術指導を受ける。

就職を希望する生徒の割合が多い専門学校では、地域の方々の協力が大変ありがたい。今後ともよろしくお願いしたい。

■事務局

・この会議の持ち方や、人材育成にあたっては、地域の方々を学校が活用すべきとの指摘があった。

・我々がプラットフォーム会議を通じて目指すものは、2回の会議を開催して終わりとするものではなく、各学校での取組、各企業の取組などを我々行政がサポートしながら各取組を繋げていくということ。

・各高校の社会人講話等の取組で、ガイドブックの活用を促進し、事務局として学校と企業をつなぐ動きを積極的に図っていく。

・更に、年2回の本会議の他にも、各学校の進路指導担当者、ハローワークの担当者等と地域の企業による推進会議を年3回程度開催。機会を捉えて各企業から意見をいただきたい。

・冒頭の指摘「ヴォイストレーニング」は、言葉の使い方に関し再度整理する。

■行政

・「ヴォイストレーニング」という言葉についてインターネットで確認すると、確かに役者や歌手のトレーニングとのとらえ方もあるが、ビジネスの世界においてヴォイストレーニングを行うことによりコミュニケーション能力を向上させるといったことが明言されている。問題無いのでは。

■商工団体

・「ヴォイストレーニング」に対する概念の考え方の違い。狭義の理解。声出しとして広義に捉えるとの考えについて了解。

■座長

・この会議は年1回の開催としていたが、本日の会議で情報を提供いただき、それを元に課題を抽出し、議論を深めるといった持ち方が正しいと認識。

・今年度からは年度後半に再度会議を開催。

・人材育成、雇用と定着、その雇用については地元への定着を進める。高校卒業後直ぐに就職する方、大学卒業後他地域へ出てから戻るなど、様々な形で地元への雇用と定着を進めていきたい。

■商工団体

・せっかくの機会なので、ディスカバリーセンターについて紹介する。地球の気象状況をリアルタイムで10日後まで表示するもの。地殻変動、温暖化の様子など、1,000件のコンテンツを有する。校外学習や企業の研修旅行など、様々な場面で利用してほしい。

【閉会挨拶：石巻商工会議所 浅野会頭】

石巻地域の産学官が「産業人材育成」という目標に向かって会議を開催したといった取組は初めて。産業界，会議所でも産業人材育成プラットフォームの取組について認識不足だった。我々の組織の中でも，こういった動きに積極的に参画していかなければならない。行政も目的をはっきりさせ，石巻の地域力を上げていくために「人」を育てる方向性を示している。まずはこのような動きを始めることが重要。

よく「人・金・情報」と言われるが，一番コントロールが難しいのが「人」である。「人」をいかに育てていくか重要な課題。学校だけに任せる訳にはいかない。企業が社員教育だけで対応できる訳も無い。それぞれが様々な角度から知恵を出し合い検討する必要がある，本日はその動きのキックオフと捉えている。

私も今後，息長く皆様と共にこの課題に取り組んでいきたい。

本日の「プラットフォームの目指すもの」もその通りであると感じた。これは，東部地方振興事務所長が替わっても継続していただくよう，願いたい。また，我々も協力していく。

今回の動きが石巻地域の活力を増すための原動力となるよう皆様とともに頑張っていきたい。